

3 新潟県中越地震の医療支援

丸山 弘樹・下条 文武

新潟大学医歯学総合病院第二内科

Medical Support for Chuetsu Earthquake

Hiroki MARUYAMA and Fumitake GEJO

*Division of Clinical Nephrology and Rheumatology,
Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences*

要 旨

平成 16 年 10 月 23 日に発生した新潟県中越地震で新潟県立十日町病院, 新潟県立松代病院, 新潟県立小出病院, 新潟県立六日町病院が被災しました。10 月 26 日から 11 月 4 日まで, 第一内科, 第二内科, 第三内科, 神経内科の 4 内科のボランティア医師で構成された医療チームは, これらの県立病院の医療支援をさせていただきました。この経験で得られたこと, 明らかにできた課題の解決を通して, 院外への医療救護班の派遣活動の質を高めることができると考えられました。

キーワード: 院外への医療救護, ボランティア, 災害対策マニュアル

はじめに

平成 16 年 10 月 23 日に発生した新潟県中越地震に被災した新潟県立十日町病院, 新潟県立松代病院, 新潟県立小出病院, 新潟県立六日町病院の医療支援を行わせていただきました。この経験を通して学んだこと, 明らかにできた課題を述べてさせていただきます。

始 動

地震発生 3 日目の 10 月 25 日昼, 当科教授の下条文武病院長と相談して, 今回の医療支援が始まりました。

医療支援の意志を持ちながら, どうして始動し

たらよいのかわからずに, 医療支援の命令 (依頼) を待っておられたという医師もいました。また, 平成 16 年から, スーパーローテートが始まり, 人手不足のため, 被災地の支援に向かいたくても事情が許さなかったという医師もいました。院内全体では, 支援に積極的な医師がたくさんおられるものという印象がありました。これらの医師の能力を活かせるように, 誰が, いつ, どのように, 始動を判断するのかを決めておくことが今後の課題であると考えられました。

医師チーム

第一内科, 第二内科, 第三内科, 神経内科の 4 内科のボランティア医師で構成されました (表)。

Reprint requests to: Hiroki MARUYAMA
Division of Clinical Nephrology and
Rheumatology, Niigata University Graduate
School of Medical and Dental Sciences
1-754 Asahimachi-dori,
Niigata 951-8120 Japan

別刷請求先: 〒951-8120 新潟市旭町通り1番町
新潟大学医歯学総合病院第二内科 丸山 弘樹

表 派遣医師(延べ44名)

10月					11月					
	26日 (火)	27日 (水)	28日 (木)	29日 (金)	30日 (土)	31日 (日)	1日 (月)	2日 (火)	3日 (水)	4日 (木)
1内	皆川史郎	岡村和氣	岡村和氣	小村 悟	加藤公則		柴崎康彦			
	柴崎康彦	真木山八城	真木山八城				小出病院			
2内	丸山弘樹	田中純太	丸山弘樹		村上修一		西 慎一		井口清太郎	
	村上修一	小川 麻	津畑 豊		小川 麻		新沼亜希子		仲田亮平	
3内	成澤林太郎	野本 実	鈴木健司	杉村一仁		遠辺雅史				
	山崎和秀	福原康夫	本田 頼	高村昌昭		小出病院				
神内	寺島健史	小宅睦郎	原 賢寿	高野弘基		小野寺理		高野政彦		新保淳輔
	赤岩謙久	横関明男	谷 卓	他田正義		高木正仁		池内 健		廣瀬正樹
	小出病院	小出病院	十日町病院	十日町病院		十日町病院		十日町病院		十日町病院

医師の数は、各病院の被災状況に応じて違いがあります。第一内科、第三内科、神経内科の総括医長に、それぞれの科からの派遣医師の候補者を調整していただきました。教官、オーペンクラスの医師、ベッドフリーの大学院生が、中心でした。各医師が、病棟、外来、出張、などに都合を付け、バックアップしていただいた同僚医師、家族に感謝しながら、参加されたものと思います。

私は存在を知りませんでした。平成16年、新潟大学災害対策マニュアルが作成されています。この中に、人的対応について、5院外への医療救護班の派遣体制という項目があります。「災害救助法等に基づき市町村長より、県知事を経由して新潟大学に医療救護班の派遣要請があった場合、又は災害時等における国立大学病院相互支援ネットワークに基づく支援要請があった場合は、医療救護班を派遣する。」という内容です。自分達から動き出すためにはどのようにしたらよいのか記載されておられません。課題の一つと考えられました。また、医療救護班の編成は、

「③医療救護班の編成

・本院の常備医療救護班は、原則として3班を編成する。

・各班の構成は、医師1名(内科系又は外科系)、看護師2名、薬剤師1名及び事務官1名程度とす

る。」とあります。医師以外も参加したチームであれば、さらに良かったと思いました。

今回医師の立場は、ボランティアでしたが、この院外への医療救護班の派遣体制、に従った支援であれば、公務になるものと考えられました。

災害時に早く始動するには、院外への医療救護班の派遣体制を決めておく必要があると考えられました。

支 援 病 院

被災地にある新潟県立十日町病院(新潟県立松代病院)、新潟県立小出病院、新潟県立六日町病院です。

交 通 手 段

25日、陸路が断たれていましたので、下条病院長が、各病院の病院長から病院局、県知事を通して、26日の移動は、自衛隊にヘリコプターでの輸送をお願いしました。

以後、新潟県福祉保健部が用意していただいた、交通手段と予定に従って移動しました。高速道路が回復してからは、新潟県の自動車被災地まで往復しました。

支援内容

10月26日から11月4日まで、各病院に一泊二日のクールで支援に当たりました。新潟県立十日町病院、新潟県立松代病院、新潟県立小出病院では、外来あるいは当直を行い、被災された医師の支援に当たりました。病院の機能が保たれていた新潟県立六日町病院では、他院からの搬入患者の受け入れを支援しました。被災当初の有機的な組織体系が構築されるまでの間でも、「医師の仕事」でなくても役に立つことを探して行うことが大切であると考えられました。

巡回

新潟県立小出病院から、堀之内のなかよし保育園、宇賀地小学校、堀之内町民体育館、竜光地区避難所、などを巡回させていただきました。開業の先生が準備された医薬品を使わせていただきました。地理に明るい開業の先生、保健所の方、新潟県立小出病院院長佐藤幸示先生が運転される自動車に乗せていただきました。

日本看護協会の依頼を受けた神奈川県看護協会災害救護対策委員の湘南東部総合病院深谷真智子看護師と横須賀共済病院永井ふみ代看護師とチームを組ませていただきました。看護師のいない私達と医師のいない彼女達は、即席としては、素晴らしいチームであったと思います。彼女達は、これまでも被災地でのボランティア活動の経験が豊富で、避難所におられる方の概要を掴んでおられました。そのコツ、ボランティアとしての心構えまで教わりました。天候が良い日の日中は、被災者の多くは、自宅などに出かけて避難所にはいないことから、夕食後の19時から消灯時間の21時までの限られた時間帯に、いくつかの避難所を巡回する必要がありました。

診察、血圧測定、医療相談、処方（降圧薬、下痢、胃腸薬、感冒薬）などが主な内容でした。

自前の医薬品、カーナビ付きの自動車、運転手を用意しないと、被災地の人的・物的資源に頼るため、むしろ迷惑をおかけすることになると考えられました。道路が回復してからも医薬品を無料で支給することは、開業の医院などに迷惑をかけることが指摘されました。

おわりに

被災地の支援活動での経験、明らかにできた課題の解決を通して、活動の質を高めることができると考えられました。今回の巡回で接した他のボランティアの方も、好意的で、協力的でありました。元気をいただきながら爽やかな気持ちで、活動できました。第三内科の鈴木健司先生とともに、医師になった頃の初心を思い出すと話しながら、医療支援に参加できたことに感謝しました。

私だけでなく、ほとんどの医師も新潟大学災害対策マニュアルの存在を知らなかったのではないかと思います。実地を通して学ぶことが大切です。今後も災害時には、被災地の支援を行い、経験を積み、付加価値が多く盛り込まれた内容に高めることが重要であると考えられました。

謝辞

大学に残って、業務の増加に耐えてバックアップしていただいた医師の協力には心から感謝しております。

司会（遠藤） ありがとうございます。実際の現場での状況をお知らせいただきました。それでは続きまして榛澤先生にお話いただきたいと思います。いわゆるエコノミークラス症候群等で活躍していただきましたのでそちらのほうも含めてお話があると思います。それでは榛澤先生お願いいたします。